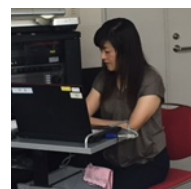


広島県開催（もみじまんじゅうラウンド） 福山大学 宮地茂記念館 H28.9.24（土）

県東部で初めて開催した今回のラウンドには、宮城県から佐々木先生、そして日頃は他教科の研究をがんばっている福山市内の小学校の先生方も多く参加してくださり、46名の仲間で熱く体育論議を交わしました。

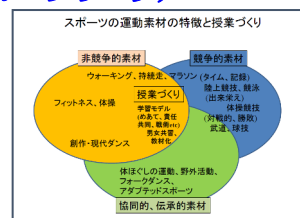
1 話題提供：「わかる・できる・かわり合う」体育学習～すべての教育活動はつながる

福山市立東小学校の藤田先生から、「体育を通して子供たちを育てる」学校の取組について、情報提供をいただきました。東小では、体育の授業を核とし、学校行事や日常の取組に関連させ、子供たちの運動に親しむ資質や能力を培う取組を長年継続して行われています。半世紀にわたって継続して行っていること、時代のニーズに応じて進化させていること、体育を通して子供を育てることの価値について、多くの気づきを促す発表をしてくださりました。前日の県大会での授業提案に続き、情報提供をしてくださった藤田先生、ありがとうございました。



2 演習：スポーツの価値を基盤とした多様な授業の展開について考えよう！（グループワーク）

グループワークに先駆けて、佐藤先生、日野先生にお話をいただきました。佐藤先生からは、「伝えたいスポーツの価値とは？」と題し、「運動・スポーツを通して育てたい態度」や、「スポーツ・運動素材の特徴と授業づくり」など、この後に行うワークの基盤となる考え方についてお話いただきました。日野先生からは、大学で行われている取組の具体について、実際の授業場面の映像を用いて紹介いただきました。「スポーツの価値について扱う際に、何をどのように、子どもたち伝えていけばよいのか」、各々のイメージが湧き、作業へと移行できたように思います。各グループでは、活発に意見交流が行われました。多様な意見を集約するのに困っているグループもありましたが、小学校での取組の様々な可能性について意見が出されたように思います。今回のワークを通して小学校では、体育以外の教科等（特別活動、道徳）や学校行事と関連させながら扱う方が、内容を組みやすいという意見が多くグループから出されました。



参加者の方の振り返りには、「学級や学校の教育活動全体で体育やスポーツの価値を高めていくことがいるのだなと思った。」「体育を通して、様々な価値に気付いていくこと、その考え方や実践の在り方を知ることができた。自校のカリキュラムに生かしていきたい。」などの前向きな意見が多くありました。これまでにない、新たな視点でのワークは、今後の授業づくりにプラスに働いていくはずです。

3 まとめ：スポーツの価値を基盤とした授業を通して目指すもの

まとめとして佐藤先生から、「教師は定型のものには強いが、新しいものを創り出すのはすこし苦手。今後は教師も、創造的に考える力が求められる。価値観とは教えて育つものではない。小学校のうちから何をどう扱うのか、中学校、高校へとどうつなげていくのか、体育・スポーツに関する価値観を育む取組を今後、チームでがんばって進めていきましょう。」とありました。日野先生からは、意識改革、価値観を変える3つの視点として、「①感動を通して心が変わっていくこと、②仲間をつくっていくこと、③経験を通して変わったという実感がもてること」とお話いただきました。このことはまさに、本日の研修を通して、参加者みんなが肌で感じたこと、そのものを指しているのではないかと思います。



4 終わりに・・・

紙面の都合で紹介できなかったのですが、会の冒頭に日頃の授業づくりに関する「疑問・質問」コーナーを設けました。これらの「疑問・質問」に対する回答者は、もちろん日野先生です。いつも無茶ぶりですみません。

「創造的に考えることの大切さを多様な立場のみなさんと考えることができました。まずは、教師自身が主体的に学ぶことが大切です。」参加者の方のこの言葉のように、子供たちの未来のために、自分が学びの主体者でありたい。素晴らしい学びの機会となったことに感謝です。みなさん、ありがとうございました。



報告者 清田